

歳出を性質別にみると…

人件費	31億2,299万円 (15.2%)	義務的経費 48.3%
扶助費	39億8,210万円 (19.4%)	
公債費	28億2,893万円 (13.7%)	投資的経費 18.5%
普通建設事業費	28億2,398万円 (13.7%)	
災害復旧事業費	9億7,822万円 (4.8%)	その他 33.2%
物件費	27億9,813万円 (13.6%)	
補助費等	25億7,908万円 (12.5%)	
繰出金	9億1,068万円 (4.4%)	
その他	5億5,189万円 (2.7%)	

特別会計

特別会計は、特定の事業を一般会計と区分したり、特定の歳入と歳出を区別して処理する会計です。

■土地取得事業	10万円
■国民健康保険事業勘定	39億9,499万円
■国民健康保険直営診療施設勘定	1億9,772万円
■後期高齢者医療	3億1,890万円
■魚市場事業	1,831万円
■漁業集落排水事業	3億1,263万円
■公共下水道事業	11億2,713万円
合計	59億6,978万円

企業会計

水道事業会計

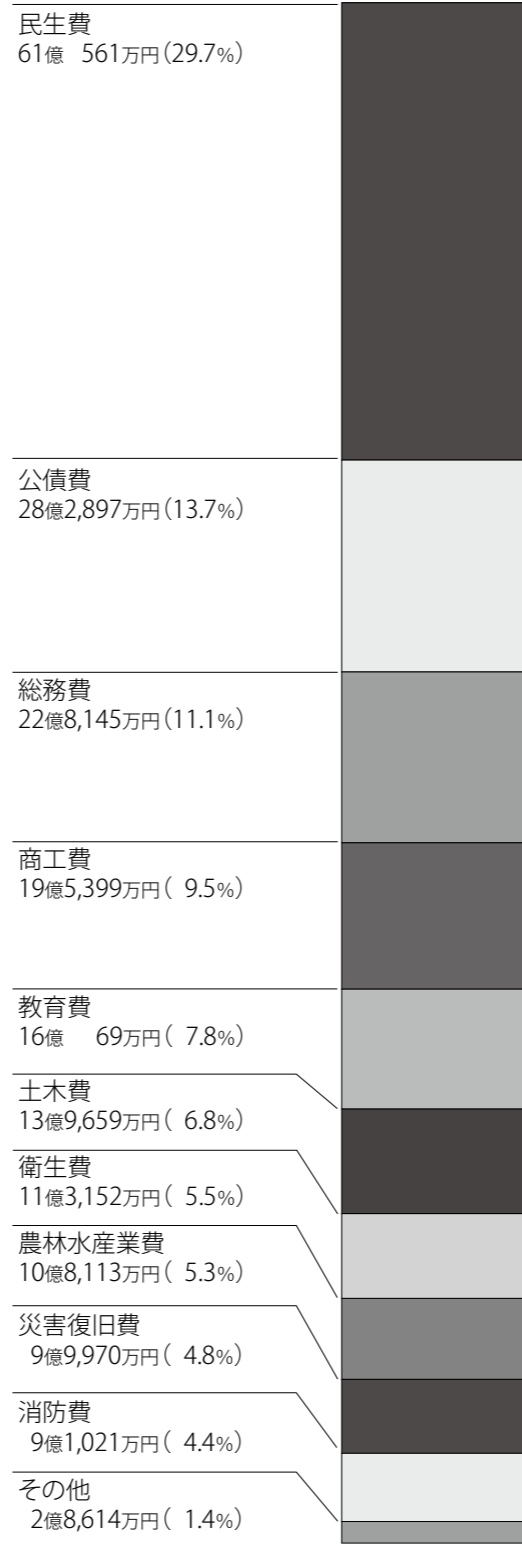
公営企業会計は、事業で得られる収入で経費を賄う独立採算制を原則とした会計です。久慈市では、水道事業会計がこれにあたります。

区分	収入	支出
収益的収支	8億9,350万円	10億7,245万円
資本的収支	9億770万円	13億8,392万円

財政用語の説明

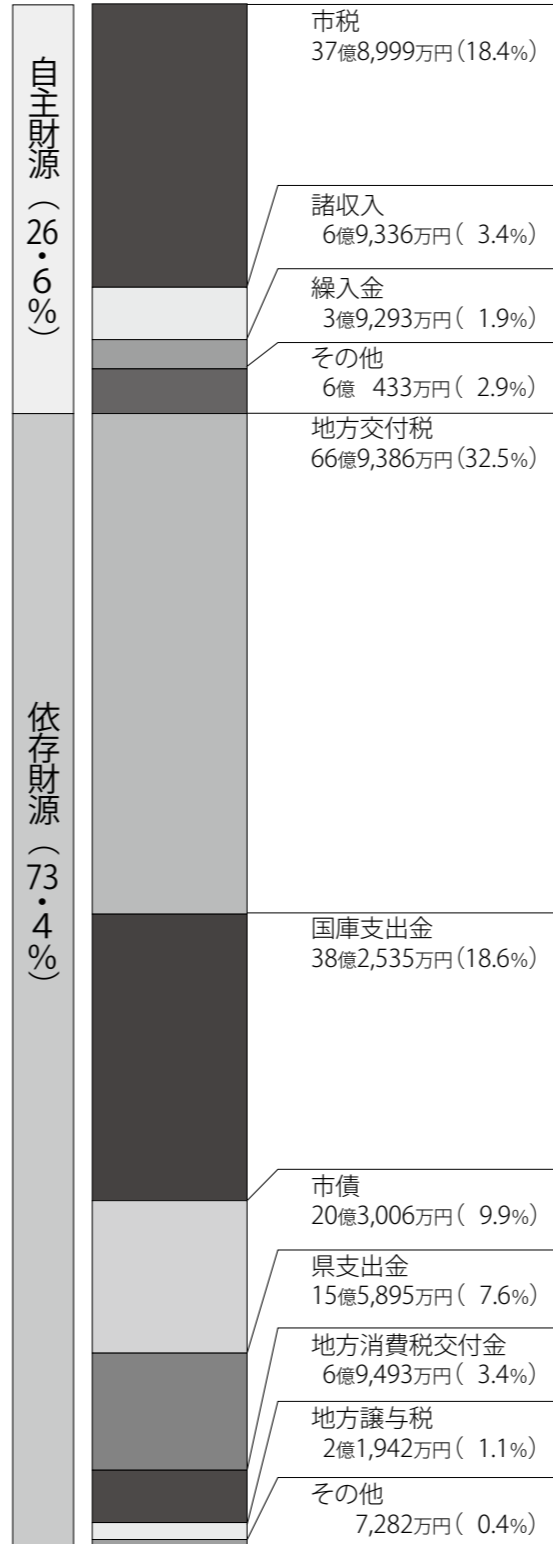
- 【収入の関係】**
- ▶地方交付税…人口や環境などの違いで生まれる地方間の格差を調整するため国から配分されるお金です。国が徴収する所得税や法人税、消費税などがもとになっています
 - ▶国庫支出金、県支出金…建設事業や社会保障などの費用として、国・県から交付されるお金
 - ▶市債…建設事業などを行うために、国や金融機関などから借りるお金
- 【支出の関係】**
- ▶民生費…福祉や子育てを支援するためのお金
 - ▶公債費…市の借金返済などに使うお金
 - ▶総務費…市役所の庁舎や財産の維持管理、戸籍管理、税金の徴収などに使うお金
 - ▶商工費…商工業や観光を推進するためのお金
 - ▶教育費…学校教育や生涯学習の充実、文化・スポーツなどを推進するためのお金
 - ▶土木費…道路や公園などの整備・補修に使うお金
 - ▶衛生費…環境の保全や、健康を増進するためのお金
 - ▶農林水産業費…農林水産業を振興するためのお金
 - ▶災害復旧費…被災した施設を復旧するためのお金
 - ▶消防費…消防や災害対策のためのお金
 - ▶義務的経費…人件費など支出することが義務づけられていて、簡単に削減できないお金
 - ▶投資的経費…道路や学校などを整備するためのお金

歳出 205億7600万円



一般会計の歳入を財源別に見ると、市税などの自主財源が54億8061万円で前年度比3億1346万円の減。対して国から配分される地方交付税や国県支出金などの依存財源は150億9539万円で、依存財源が歳入に占める割合は73・4%と前年比0・9%減少しています。

歳入 205億7600万円



平成30年度予算は総合計画基本構想に基づく事業、災害復旧復興事業を優先しました。台風10号の復旧復興に係る予算は10億7246万円、東日本大震災に係る予算(復興計画掲載事業)は9億3296万円と全体予算の9・7%を占めています。災害に係る予算を除いた通常経費予算は185億7058万円。昨年度から約2億4634万円減少しています。限られた財源の中、久慈駅前整備事業の本格実施、久慈地区ごみ焼却場の長寿命化整備等による久慈広域連合への負担金、大川目市

予算編成
台風10号復旧・復興を優先
子育て世帯の支援を重視

平成30年度の一般会計当初予算は205億7600万円。本年度は骨格予算のため、平成29年度と比較して20億945万円の減額となっています。緊急の課題である台風10号被害関連の復旧事業を継続するとともに、限られた財源の効果的な活用を努めながら、市総合計画に基づく事業、子育て支援の拡充、駅前整備事業などを優先して予算を配分しました。その概要をお知らせします。 ※金額は1万円未満を四捨五入しています